

令和6年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		生徒が未来を切り拓き、よりよく生きていくために、生徒が明るく主体的に活躍できる場と、安心安全の学びの場を構築し、これからの時代を生き抜く人間力のある「誇り高き 高鍋プライド」を持ちあわせた生徒の育成に努め、保護者・地域から信頼される活力ある学校作りに邁進する。 ○普通科（LA/C1クラス）、探究科学科、生活文化科が切磋琢磨し、地域教育の拠点校として、地域に根ざした教育や地域を支える人財の育成に挑戦していく学校 ○第二世紀を迎え、生徒・職員が新たな校風や伝統の醸成に挑戦していく学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。					
本年度の重点目標 (詳細は学校要覧P10)		1 確かな学力の向上と進路実現 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 4 地域に開かれ信頼され活力ある学校づくり 5 教職員の資質向上			「①ICT機器の活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。」の他2項目 「①自他の命と人権を尊重し、互いを認めあえる生徒の育成。」の他2項目 「①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。」の他2項目 「①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。」の他2項目 「①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。」の他2項目			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		
校務分掌	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 [上の表の学校経営方針との整合] [各部/学年/科のミッションを念頭]	評価指標（手段・ゴールイメージ） [ミッション（努力事項）を達成したといえる状況] [上の表の評価項目との整合]	具体的な対策	3学期（※学期反省で活用する）		学校関係者評価及び具体的意見			
					評価	成果及び改善策 （○実施済み、成果あり ●課題あり）	評価	コメント		
教務部	4 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1)地域に選ばれる学校として、各方面との連携強化を行い、個々のライフプラン実現をサポートできるような学校体力を付ける。	①-1 オープンスクール参加生徒の受検希望増加 ①-2 入学者選抜検査生徒数増加 ② 新教育課程の更なる検討とそれに相応しい授業 展開の工夫（授業で勝負）	(1)①教育魅力化情報部やKGC（児湯学友団コンソーシアム）との密なる連携と協力体制の強化 ②教育課程の検討と観点別評価の深化	3.0	○ 地域の各団体との連携もあり、対外的行事への外からの参加者が増えている。その結果として、直近の入学志願者数も昨年度と比して増加しており、入試業務が忙しくなるとい嬉しい悲鳴が起こっている。 ○ 教育課程を検討していくことが、高鍋高校の学校としての・学科としての特色をより鮮明にしていくことにつながっていった。 ● 上記の一方、教育課程表編成が難航し、結果として前年度を踏襲することとなった。第2学年以降の教育課程に関する議論が紛糾しており、実際に施行されるのは来年度以降のことであるから、やりながらの判断・再検討となる予定である。 ○● 観点別評価の深化は県教育委員会の指定を2年連続で受けた地歴公民科だけではなく、1年間の指定を受けた理科と芸術科では協議を重ねられ実践につながったが、他の教科の一部ではその取り組みが遅々とした進みのように思われるものもあり、温度差が正直生じていると言わざるを得ない。	3	地域との連携で対外的行事への参加者が増加している点は、評価できる。 様々な取り組みにより推薦入試入学志願者数の増加に表れていると思われる。		
	5.教職員の資質向上	(1)常に疑問を持つ意識を失わず、その中に自らの活路を見出し、自走」する能力を育成する。	探求（自求）し、探究（自走）することで自己実現へと到達する。 ・自分の言葉で自己表現出来るための様々な場の提供と継続的・集団的指導体制の構築	(1)①「探究」を常に意識した授業改善のための授業研修と授業公開（Input→Output, PDCAということ）	2.8	○ 従来の学習成績評価方法から、単元別評価の累計となった現行の学習指導要領に基づいて、地歴公民科が2年間、理科と芸術科が1年間にわたって県教育委員会の研究指定を受けたので、学校全体として新しい学習成績の出し方とそれに伴う授業改善を行っていた。 ● その一方で、授業やテストを通じての「振り返り」が生徒・職員ともに十分な取り組みとはなっていない場面が見受けられた。結果として、生徒の「自走」と職員の授業改善が不十分な部分があるとの評価をせざるを得ないようにも感じられた。 ○ 授業はもちろんのこと、学年等での取り組みによって、アウトプットするということに消極的ではない姿が多く、あとはインプットの部分を充実させてアウトプットをよりよいものとなってくればと次年度に向けて考える。	3.2	自立を促すような取組をお願いします。		
生徒支援部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1)生徒の一人ひとりの個性を尊重した指導と基本的生活習慣の確立	(1) ①元氣な挨拶ができ、端正な容儀を保っている ②法令や校則を遵守し、モラルやマナーを大切にしている	(1) ①生徒保護者へ ヘルメット着用の呼びかけを行うとともに、支給されたヘルメットを有効に活用して、自転車乗車時における生徒のヘルメット着用率を上げていく。（令和6・7年度 自転車ヘルメット着用推進リーダー校） ②校則の基準作りに生徒自らが携わることで、規範意識を高める。 ③関係機関と連携し、講話やHR活動を通して心の教育や規範意識を高めるための教育を充実させる。 ④学年・関係部と連携を図りながら、生徒の情報を共有し、迅速な対応を行う。	3	○問題行動の際、迅速かつ組織的に対応している。 ○ヘルメット着用について、アンケートや調査を行った。 ○交通委員による、ポスターの作成・掲示・昼食時の校内放送による着用の呼びかけが計画的に実施できた。また高鍋警察署と連携を図りながら、自転車ヘルメット着用率の増加に努めてきた。 ●自転車ヘルメットに関しては、補助金を出してもらえるようになり、徐々にではあるが購入する生徒も増えてきている。現状なかなか着用率が上がっていないが、今後も着用率アップに繋がる対策を講じていき、着用率を上げていきたい。 ●寒くなって、いい加減な服装になってきた。常時声かけが必要である。	3	ヘルメット着用をどの程度目指しておられるのがよく分からない。子供の意識の変化を待つか無いのか？先生方の苦悩が伝わってきます。 自転車ヘルメット着よりリーダー校として、新入生に補助金を出して着用率を上げてほしい。 ヘルメット着用の取り組みは、引き続き繰り返し行なっていただきたいと思います。 生徒の自主性を尊重しながらヘルメット着用について考えている取り組みが良		
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進		7(1) ①勉学と部活動の両立をに向けて真摯に努力している ②各種行事、委員会活動に積極的に参加している	(1) ①生徒の主体性を尊重しながら、活躍の場を提供し、生徒会や各種委員会活動、実行委員会の活動支援を行う。 ②部活動の活動内容や大会・試合日程・結果等を関係部署と連携して、校内外に 喧伝し、応援・支援体制を向上させる。	3	○今年度も運動部・文化部ともに活発な取り組みを見せ、優秀な成績を残している。 ○生徒会長選挙も定着し、生徒会執行部もある程度まとまった人員を確保することができている。 ○今年度、各種委員会に生徒会役員は補佐としてつき、委員会の長が中心となって委員会活動を進めている。次年度以降も続けていきたい。 ●各種委員会の回数が少なかったので、活動の場を保障するためにも、次年度は委員会活動の時間を確保していきたい。 ●部活動の加入率が下がっている。 ●今年度は年度途中の退部者も多かった。	2.9	メリハリを持って学校生活を送ってもらいたいと願う。 運動部・文化部ともに優秀な成績を残している。全国高校ラグビー大会でBシード相手に抽選負けと惜敗し、感動した。 国スポ出場のtarget ageであることを念頭に、部活動にも力を注いでいただけると良いと思います。		
	4 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1)社会性があり、地域に愛される生徒の育成	(1) ①自分や周囲の人達の安心・安全を尊重することができる ②地域のボランティア等に積極的に参加できる ③情報機器や様々な情報に適切に関わることができる	(1)①関係機関と連携を図り、交通マナーや情報モラル等、規範意識の向上に努める。 ②地域で開催されるボランティアの情報を随時生徒へ案内し、参加する機会を増やす。GoogleClassroom等を積極的に活用する。 ③HR活動等を通して、主権者教育を充実させる。	2.8	○今年度も、各種ボランティアの募集案内に応じてくれる生徒が多数いた。今後も適切に情報を提示していきたい。 ○警察や交通安全推進協会との連携を図りながら、生徒の交通安全に取り組んでいる。 ●スマホの使用については、公共のマナーや道交法を意識させながら指導していく必要がある。 ●人間関係のトラブルが年々多くなっている。なかなか対応が難しい面もあるが、相談部と連携を図りながら迅速な対応に努めていきたい。	3.3	家の前を木城方面の生徒が通るが、気持ちの良い挨拶をしてくれます。 地域ボランティアに積極的に参加する生徒が多い。 生徒に促して積極的にボランティア活動に参加している。高鍋警察署との連携していることも評価されます。		

進 路 支 援 部	1. 確かな学力の向上と進路実現	実現のための学力向上・活動実績づくりの支援とキャリア教育の充実	①自分の将来像が明確にイメージでき、卒業後の進路希望が具体的になっている ②基礎学力の定着を図り、進路実現へ向けた諸活動・資格取得に積極的に取り組んでいる。 ③国公立大学入学試験合格率、推薦入試50%、一般入試40%を達成 ④就職試験合格率100%を達成	①進路LHRを活用し、低学年からの志望校対策指導を実施する ②進学講演会、進路ガイダンス、県内大学訪問の実施 ③インターンシップの実施(2年CI生文) ④受験における小論文・面接指導の組織的な取り組み ⑤放課後講座、夏期・冬期セミナーの計画・実施 ⑥学力検討会、志望校検討会、模試分析会の充実を図る	2.8	○1年生は、入学後早い段階で普通科集会を実施し、LA・CIの説明で今後類型の選択をしていく意識付けができた。また、進路LHRでは多くの卒業生に協力をもらい、生徒への講話を実施し、進路意識の向上を図ることができた。 ○2年生は、進路ガイダンス、県内大学訪問を実施し、外部の方の話を聞くことで、自分の進むべき道を真剣に考える時期が始まっていることを認識する機会となった。 ○2年生のインターンシップでは、地元の協力もあり、希望先で体験することができた。進路決定にもつながる貴重な体験であり、働くことについても考える良い機会となった。企業への協力依頼や事前学習の充実が今後の課題となった。 ○3学年の放課後課外、全学年を対象とした夏期セミナー・冬期セミナーに、昨年度よりも多くの生徒が参加した。セミナーごとに各教科や学年で実施内容を工夫したが、セミナー後のアンケートで生徒が求める講座を提供できていなかったことが課題にあり、来年度はその反省点を活かして組織的に取り組んでいきたい。 ○国公立大学入学試験について、学校推薦型選抜の推薦入試においては、早期の対策や意識付けを行い、50%近い合格率となった。小論文・面接指導に組織的に取り組めた成果でもあった。 ○民間就職は面接指導の組織的な取り組みができ、合格率100%であった。 ●学力検討会、志望校検討会では、情報交換のみならず、学力向上や進路意識の向上につながる内容となるための工夫、検討が必要である。	3	数値目標が達成できていることが素晴らしいと思う。授業以外でのご指導も多いように見受けられ、お忙しい中ありがたいことだと感じる。 普段の授業とは異なった対話型を取り入れるなどして生徒の学力の向上に努めていただきたいと思います。
	3. 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒の主体性・自己管理能力の育成	①短期的・長期的な目標を立て、計画的な取り組みを通して、確かな実践力を身につけている ②自宅学習を中心とした学習習慣が身につけている	①「生活の記録」を活用し、日々の生活状況を振り返る ②Classiを活用し、自主的な学習への取り組みとポートフォリオの蓄積を支援する ③学習実態調査結果と学習成績のデータを分析し、対策を講じる。	2.3	○生徒は「生活の記録」を記入することで、毎日の生活を振り返り、無駄な時間の削減とともに、必要な時間を生み出すことができた。また、確認する教師側も、取り組みの状況を知り声掛けをすることで、生徒とのコミュニケーションを図ることができた。一方で、習慣の定着にも個人差が大きいと感じる。 ○Classiは日々の学習の記録やBUでの学習で各学年の取り組みとして活用した。一方で、活用方法は学年、学級担任、教科担任へらせている状況があり、進路支援部からも仕掛けができるように工夫していきたい。 ●校内実力テスト期間(10日間)に自宅学習時間調査をClassiを活用して行ったが、成績との関連など分析ができなかった。	2.6	活用成果に繋がることが本当に難しいのだなあと先生方のご苦勞を痛感した。
	5. 教職員の資質向上	生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の研究	①入試研究会や講習会などの研修に積極的に参加している ②最新の進路情報を教員間で共有し、面談等に活用できている ③進学・就職に係る実践力を育成するための授業改善に取り組んでいる	①受験に係る校内研修の計画・実施 ②進路説明会や企業説明会への積極的参加と情報共有 ③県内新規企業の開拓と先進校視察の計画	2.4	○大学・専門学校説明会には3学年の先生を中心に参加し、学年会や学力検討会で情報共有した。面談等を利用して、得た情報を生徒へ還元し、生徒の進路実現に生かすことができた。今後、早期進路対策に役立てるために、1・2学年へ必要と思われる情報伝達も積極的に心がけたい。 ●進学受験に対する教員向けの研修については随時進路支援部から案内しているが、校内研修については計画・実施できなかった。 ○就職については、県の就職支援コーディネーターと連携を図り、情報収集したものを担任や関係職員と共有し、個別支援・面談等に活用できた。企業説明会や公務員等説明会に参加するなど生徒も積極的に動いていた。 ●就職を希望する1、2年生向けの企業説明会の実施を検討していきたい。	2.7	

教育魅力化・情報部	1 確かな学力の向上と進路実現	(1)情報化社会を生き抜くための技術やアイデアを学ぶ環境を整備し、学校全体の情報活用能力の向上を図る。	①県導入の教育アカウントを適切に学習・学校活動で利用している。 ②明倫をはじめとした様々な探究活動で効果的に利用できている。 ③正しさを知り、正しく恐れる。	①アカウントを適切に利用するためのガイドブックを作成し、オリエンテーションや講話を通じて適切な利用を促す。 ②教科や学科と連携を図り、生徒が効果的にICT活用ができる教育を実施していく。 ③頻出する事案などに対しては対策を周知し対応していく。	3	○「明倫」活動を通して、生徒・教師共に、共同編集しながら活用する方法が定着したのではないと思われる。 ○授業やHRのさまざまな場面で効果的にICT活用ができたと思われる。 ●不適切使用については指導を継続する。	3.1	成果の根拠がよく分からない。結果として学力向上に繋がっているのかがよく分からない。
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1)OSやNPJ,令和明倫堂塾等の行事を通して、生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育むことができる環境を提供する。	①学校行事やKGC主催の各行事において、行事の参加だけでなく、運営スタッフとしての積極的参加を促し、生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成につなげている。	①OSやNPJの運営にボランティアとして関わる生徒たちを募集し、本校の魅力を再認識させる。 ②令和明倫堂塾の活動を通して、自分の将来や人生について考える機会を設ける。	3	○生徒達が、それぞれの企画に自主的に参加し、役を務めることで内面的成長が促されたと感じる。 ○Instagramの積極的更新は多くの先生方のご協力もあり日々実践できていると思う。フォロワー数 587(4月)→1176(1月31日)も大幅に増えた。	3.1	Instagramのフォロワーとして毎回の更新を楽しみにしています。
	3地域に開かれ信頼され活力ある学校づくり	(1)地域や児湯郡周辺中学校、KGC(児湯学友団コンソーシアム)としての活動を通して、協働的な学びの場を創出する。また、高鍋高校の新たな価値を創造し発信する。	①地域の小中学校、高校との連携を図っている。 ②KGC事務局として地域に貢献できる活動を実践している。 ③オープンスクールの企画を通して本校生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成につなげている。 ④鮮度の高い情報を随時配信することで、地域の高鍋高校の教育活動への関心を高めている。	(1)①中学校へ説明会出向く教員と生徒の選抜と事前指導、資料作成を行う。 ②近隣の小中学校と連携しながら出前授業を企画する。 ③KGC事務局として、周辺の小中高校と連携し、各事業の円滑な運営を実践する。 ④HPやSNSを適宜更新し、新鮮な情報を発信する。	3	○KGCをはじめ、オープンスクール、その他の明倫等も総合的に地域との連携が増えたと感じる。 ●魅力化と小中学校との連携、明倫の地域連携、探究科の地域連携が個別に動いており、中学校側が混乱されることがあった。高鍋高校とどこがどう連携しているか、また、アンケート協力等をしようとしているか、全職員がわかるような何かが必要だと思う。 ●KGC事務局が本校に移り、さまざまな活動を行ってきたが、授業や校務との両立が厳しい面もある。昨年度まで専属の人間がいた業務を教員がやることの負担はとて大きい。	3.2	KGCの知名度が低い?内容的にはとても素晴らしいと思うので、もったいないと感じる。またそれを先生方が担当されるのは、相当無理があるのではないと感じる。 中学校受験で宮崎市内に流れている学生もいます。小学生との関わりを持つ取り組みの効果は大きいと思います。
	5教職員の資質向上	効果的なICT研修を企画し、授業力や情報処理能力、情報活用能力の向上に繋げる。	①生徒たちが満足する授業を実践している。 ②ICTを適宜利用してスムーズな校務ができている。	(1)①職員研修を企画・実施し、授業での活用方法を波及していく。 ②ICT活用授業公開を実施する。 ③他の校務分掌との連携を図り、効果的なICT活用を促す。 ④他の校務分掌と連携を図り効果的なICT活用を促	3	○教員側のICT端末の活用方法が概ね定着し、手書きとプロジェクター等の活用がよいバランスになってきていると感じる。また、生徒達もスムーズに着いてこれようになってきていると感じる。 ●毎回充電切れの生徒や端末を忘れる生徒がいる。 ●タブレットの扱い方が雑な生徒があり、破損が生じている。学校に置いて帰宅する生徒も多く、管理上心配である。	3	ICT活用を授業に取り組むことは評価できるが、生徒側の真剣さ、取り扱い方の重要性を促していただきたい。
保健環境・相談部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(2)(3)健康安全教育・防災教育の推進 (2)(3)校内環境美化・緑化の推進	(2)①毎朝のHRでの健康観察の実施できている。 (2)①職員研修(応急手当、心肺蘇生法)の実施ができている。 (3)①関係機関と連携し、校内の衛生管理の徹底ができている。 (2)③定期的な清掃活動状況の点検ができている。 (2)③定期的な校内安全点検の実施ができている。	(2)①生徒の心身の健康の充実を図る ①個人の健康管理を徹底させる ③救急法の実践活動を推進する ③防災教育の情実を図る (3)③校内衛生管理の充実を図る ③日常の清掃活動の指導・監督 ①定期的な清掃状況の調査・確認 ①学習環境の点検及び改善	3	○朝の健康観察は日々実施できている。 ○職員研修(心肺蘇生法、エピペンの利用法、応急手当等)が実施できた。 ○●健康講話を年2回(歯の健康、性教育)実施できたが、12月3日の健康講話(性教育)は、修学旅行時期と重なり、2学年が受講できなかった。3学年は受講できたが、受験時期に重なり、もともと分かった上での日程調整ではあったが、次年度は時期の見直しが必要だと感じた。また、いずれも2学期の実施となってしまったので、次年度も2回実施できるのであれば学期を分けて実施出来るようにしたい。 ○●防災訓練(年2回実施)においては、実際の動画(1学期)や実技(2学期)も交えた講話を行っていただいたので、生徒の刺激になったと思うが、私語が多く、真剣味の欠けている部分もあった。 ○肥料散布、花の配布、植え付けはスムーズにできました。じょうろ、移植ゴテ等必要なものは担当者まで連絡お願いしたい	3	
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(2) 生徒支援の向上	(2)①学年会や保護者と密に連絡を取り、情報を共有できている。 (2)①生徒一人一人を大切にし、組織的にサポートする体制ができている。 (2)②生徒の家庭や生育状況に応じたサポートができるような体制が整っている。	(2)②学年会や保健室の情報を基に速やかな対応 ①生徒支援部との連携による生徒理解の深化 ②校内外の諸機関との連携を密に図る	3	○学年会と連携しながら、気になる生徒にその都度対応できた。 ○SC/SSWの他、支援学校や地域の関係機関とも連携を図った。 ○●心配な生徒がいる場合や問題等が発生した場合にケース会(教科担任会)の実施したことでその後のクラス状況改善に役立った。ケース会ではできるだけ早い時期に実施すべきだが、時間の調整が難しい。 ●県SCの時間を増やして頂いたが、面談が必要な生徒が多く、生徒一人一人に対する十分な時間が確保できていない。	3.1	SCの活用を推進し、子どもの心のケアに努めていただきたい。 スクールカウンセラーの充実をはかることが必要。
	5 教職員の資質向上	(2)(3)(5)生徒・保護者・職員の支援	(5)②全職員や担当職員間で生徒情報を共有し、効果的な指導・対応ができている。 (3)②生徒(保護者)が安心して相談できる環境が整っている (2)②定期的に生徒の状況が把握できている。 (5)②生徒への支援が関係職員と連携してできている。	(2)①教育相談アンケート・週間の実施と活用 (3)③教育相談室の整備と活用 (5)②担任、副担任、部顧問及び保護者との連携 ②教育相談に関する研修の実施	3	○教育相談アンケートを実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、担任や保健室と連携して個人面談等の事後指導も行えた。 ●相談室登校の生徒に対して、担任と連携を図りながらリモート授業等の対応はできたが、教室復帰を前提とした相談室利用という点に関しては課題が多いように感じる。 ●SC/SSWの活用について、内容を十分に把握してもらうための研修が必要である。	3.1	

渉外広報・図書部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	1. 読書指導の充実 2. 生徒図書委員活動の充実 3. 館内の環境整備の充実	①本に興味関心を持ち、課題解決や進路実現に役立てることができる。 ②生徒主体の図書館運営を目指し、各係が協力しながら責任を持って活動できる。 ③新刊や良書をそろえ、落ち着いた雰囲気読書できる空間作りに努力する。	(1)朝の読書を通して興味関心を深めさせる。また、月初めの図書部会で選し、生徒や職員から希望図書を出してもらう。 (2)毎月新刊案内、ライブラリーニュースを発行して、本の紹介や図書室利用を呼びかける。 (3)調べ学習やアクティブラーニングへの関わり方を検討する。また、季節に合わせて閲覧室の模様替えや特設コーナーの本をリニューアルする。	3.3	○朝読書への感覚・温度感の摺り合わせが毎回丁寧にできた。 ○ICT活用（Google Formによる図書購入希望システム、高鍋高校図書館Google Classroomの新設）により、図書館を「より快適に・より便利に・より身近に」できた。 ○定例生徒会における熟議の上、生徒主体の活動を実践することで図書委員会の活性化を図ることができた。読書旬間等のイベントもクリエイティブに企画・実施することができた。 ●朝読書の取り組みについて、クラスによる差が見られる。共通理解の徹底を訴えていきたい。 ●昼食時の臨時招集等により、図書委員の生徒に負担を強い部分がある。生徒役員間の連絡体制強化等を通して負担軽減に努めていきたい。 ●図書未返却の生徒の数が一定数変わらずいる。図書館利用のマナーを守る姿勢を育てていきたい。 ●来年度から、生徒・職員が「ひなた電子図書館」を利用できるよう導入の準備を進めたい。 ●外部（TSUTAYAたかなべ店）との連携企画にも、図書委員会活動として積極的に取り組んでいきたい。	3.1	
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	1. 学校・保護者の連携を深める 2. 職員・保護者の研修の機会設定 3. 生徒・保護者・地域社会への情報提供	①PTA総会、学年PTA及びPTA諸行事の活性化を通して、学校と家庭の連携・協働を推進する。 ②PTA活動を通して、環境整備や学校行事活性化の活動を行う。また、PTA各種研修の成果を生徒に還元する。 ③魅力ある広報物（PTA新聞、学校パンフレット、学校案内ポスター等）の作成を行う。	(1)保護者案内を早期に行い、会の内容が魅力あるものになるように検討する。 (2)PTA奉仕活動や食物バザーを保護者と学校が連携して実施する。 (3)PTA新聞は学期毎に広報委員と職員が協力して編集発行する。また、高鍋高校広報紙、学校パンフレットの内容を、部会を通して検討する。	3.3	<広報関係> ○広報委員との協力の下、『PTA新聞』を年間を通して計画通りに発行することができた。また保護者の要望に応え、メールによるPTA新聞発行のお知らせを配信し、多くの保護者に見てもらえるような働きかけに繋げることができた。 ○高鍋高校広報紙は、今年度は新たな形としてインスタやHPアドレスを紹介するQRコードを掲載したものを作成し、西都児湯や佐土原地区の中学生へ配布することができた。 ○次年度用学校パンフレットについて、芸術科（美術）とのコラボレーションにより、より生徒主体の取り組みを実施することができた。 ○屋外広告物についての基準を定め、掲示を行うことができた。事務局と連携し、次年度に向けた予算確保を着実にいき、生徒たちの活躍を発信し続けていきたい。 ○部会を通して部員の意見を取り入れ、ひとつひとつの広報物の内容や形態に対して改善ができた。 ●PTA新聞が学校職員新聞になってしまっている。広報委員の活動のありかたを検討する必要がある。 ●PTA新聞の編集作業が、担当者任せになっている。年度当初の役割分担に従い、チームとして業務にあたる体制を確立したい。 <PTA関係> ○PTAと連携を密にし、様々なPTA事業や業務整理を積極的に行うことが出来た。 ○同窓会事業について、早期より議題に挙げて同窓会事務局やOBの方々との丁寧な連携を実践できた。 ○次年度PTA総会の方向性について、丁寧に手順を踏んで改善することができた。 ●様々なPTA関連行事について、役員以外の保護者の声もアンケート等で積極的に取り入れたり、他校の状況も踏まえて、来年度以降も改善していく必要がある。	3.1	
事務部	1 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	1. 生徒が環境美化等に進んで取り組める環境の整備	1. 校内にゴミが落ちていない 2. 一般ゴミと産廃ゴミの分類がされている。	(1)関係部と連携した在庫管理に基づく清掃用具等の購入を行う。 (2)ゴミ置き場に持ち込まれたゴミの定期的な搬出を行う。 (3)落ち葉等ゴミ置き場のゴミの定期的な搬出を行う。	3	○清掃用具等は持出簿等により在庫確認を行い定期的に発注を行っている。 ○年度初めに締結した委託契約に基づき、定期的にゴミ置場のゴミを回収している。 ●面積の大きい産業廃棄物の2棟北側機械倉庫搬入を次年度当初から徹底する必要がある。	3.3	
	2 自立的な自己の確立と文武両道の推進	1. 生徒が学習、部活動、諸活動に安心して取り組める施設整備	1. 修繕が必要な箇所の把握や危険箇所の修繕が行われている。	(1)教職員・生徒からの情報や校内巡回による修繕等が必要な箇所の把握を行う。 (2)敷地内の樹木の適正な管理を行う。 (3)修繕に必要な予算の確保を図る。	3	○教職員から連絡のあった箇所や巡回で確認した箇所です緊急性の高いものは随時予算要求を行い修繕に取り組んだ。 ●敷地に大きく成長した樹木があるので引き続き適正に管理を行う必要がある。	3.1	
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	1. 保護者等から信頼される事務室づくり	1. 保護者等が来校しやすい雰囲気となっている。 2. 効果的な予算の執行が行われている。	1 (1)窓口や電話での対応において、丁寧な対応を行う。 2 (1)法令等に基づく適正な予算の管理・執行を行う。 (2)PTA予算の適正な管理・執行を行う。	3	○来校者に書類の記入方法を細かく説明し一緒に書類を作成するなど丁寧な対応を行っている。 ○予算の執行に当たっては、最新の法令等を確認するなど、適正な予算の管理を行っている。 ●電話をかけた教員が分からず、折返し電話の取次に時間を要することがある。	3.2	何度か訪れたが、事務室の方の対応が気持ちの良いものであった。

令和6年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		生徒が未来を切り拓き、よりよく生きていくために、生徒が明るく主体的に活躍できる場と、安心安全の学びの場を構築し、これからの時代を生き抜く人間力のある「誇り高さ 高鍋プライド」を持ちあわせた生徒の育成に努め、保護者・地域から信頼される活力ある学校作りに邁進する。 ○普通科（LA/CIクラス）、探究科学科、生活文化科が切磋琢磨し、地域教育の拠点校として、地域に根ざした教育や地域を支える人財の育成に挑戦していく学校 ○第二世紀を迎え、生徒・職員が新たな校風や伝統の醸成に挑戦していく学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。					
本年度の 重点目標		1 確かな学力の向上と進路実現 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 3 地域に開かれ信頼され活力ある学校づくり 4 自律的な自己の確立と文武両道の推進 5 教職員の資質向上			「生徒主体による基礎基本の養成・ICT活用」 「互いの命と人権を認め合う環境作り」 「地域拠点校としての役割推進」 「自主性・自立性を涵養する文武の推進」 「各種研修の受講による指導力向上」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		
学年 学科	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 [上の表の学校経営方針との整合] [各部/学年/科のミッションを念頭]	評価指標（手段・ゴールイメージ） [ミッション（努力事項）を達成したといえる状況] [上の表の評価項目との整合]	具体的な対策	3学期（※学期反省で活用する）		学校関係者評価及び具体的意見			
					評価	成果及び改善策 （○実施済み、成果あり ●課題あり）	評価	コメント		
第Ⅰ学年	1 確かな学力の向上と進路実現	(1)自己理解と進路理解に努め、進路目標の実現に向けた基礎学力の醸成に取り組む生徒の育成	①自己理解と進路理解に努め、主体的な進路目標の設定ができる。 ②自宅学習や放課後の学習を充実させ、基礎学力の定着を図ることができている。 ③各種模試の受験前後でClassiを活用し、自己分析ができている。	(1)①明倫の時間・進路LHRを活用することで、進路意識の向上を図る。 ②「授業が第一」の意識付けを徹底し、日々の学習への取り組みの充実を図る。 ③日々の学習時間の記録や模試連携問題などClassiの有効活用を図る。 ④放課後の時間を個別指導や各種検定への指導など充実した運用を図る。	3.0	○進路LHRでの講演会、適性検査、明倫の時間の進路探究を通じて、職業・学問を深掘りし、進路意識の向上が出来た。 ○授業第一と考え、50分間真剣勝負を心がけ、生徒たちにも話をしてきた。概ね良好である。生徒の実態に応じた、きめ細やかな指導・支援が出来ている。朝や放課後の時間をつかって、希望者向けの講座を継続している。 ○Classiを使って課題配信や学習量調査など有効活用できた。今後も学年で計画的に活用したい。 ○個人差はあるものの意欲的に学習に取り組む生徒が多く、LA・探究向けの放課後講座には、多くの生徒が希望し受講している。英検や漢検などに積極的に挑戦する姿がみられた。さらに増えていけるように声かけをしていきたい。 ●普通科はLA・CIの希望者が混在しているため、同時に両方の進路探究の計画を立てる必要があり、後手に回る部分もあった。 ●授業中の学習や課題の提出状況などはおおむね良好であるが、家庭学習の定着や時間増へ繋げることが課題である。 ●生徒の力に応じて基礎・標準・応用と内容が選べ、個別に配信できたが、生徒間の取り組みの差を埋めることが出来なかった。まずは、学習状況の入力を朝のルーティンとし、よりClassiを意識付けさせていくことが必要である。	3	生徒のモチベーション向上にきめ細やかな指導が行われています。放課後講座や英語検定などへの積極的な挑戦が見られるのはたいへん喜ばしいことです。		
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1)基本的生活習慣の確立を図ると共に、何事にも積極的・自主的に取り組む意欲を備えた生徒の育成	①挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として帰属意識を持って、日々の学校生活を意欲的に送ることができている。 ②常時指導や声掛けを徹底し、遅刻、欠席ゼロを目指す。	(1)①生徒支援部や保健環境・相談部との密な連携を図る。 ②正副担任や学年主任との定期的・臨時的な二者面談の実施を行う。 ③「Takanabe Highschool Style」を周知させ、見逃さず常時声掛けを行う。	2.9	○BUタイムの時間を使って、進路選択や学校での悩みなどが把握できるよう担任による二者面談を行った。学習面で気になる生徒は教科担任による二者面談にも取り組んだ。 ○保健室や相談室と連携し、気になる生徒を学年団として把握し指導に当たることができた。 ○人権教育はメディアに携わる方の講演を聴き、人権感覚を研ぎ、人生観を学ぶことができたり、命についてじっくり考えるなど、普段意識しない部分について真剣に向き合うことが出来た。 ○欠席が続いた生徒には、担任・副担任が連携して時期を逃すこと無く二者面談を行ってきた。 ●体調面での利用以外の保健室利用が生徒が多くなり、授業等にも支障が出るがあった。 ●一部の生徒に慣れから来る生活習慣の乱れ（清掃の取りかかり・・・ロッカーの整理・遅刻・服装の乱れ・化粧など）が常態化しつつある。 ●「Takanabe Highschool Style」の言葉を耳にする機会がなかった。特に寒くなって制服の着こなしについて注意を払う必要性が高くなった。	3			
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1)学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組み、行動力と豊かな人間力を持った生徒の育成	①部活動への加入を推進し、文武両道を目指している。 ②学校行事や各種ボランティア活動、校内での委員会活動などに主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。	(1)①「文武両道」を目指し、部顧問との常時連携を図る。 ②学校行事を中心に生徒が主体となる活動の機会を増やす。 ③校内外のボランティア活動等への参加の呼びかけを行う。	3.0	○学校生活にも慣れ、学校行時の実行委員やボランティアなどに積極的に参加しようとする生徒が増えた。生徒会長選挙に立候補する生徒もいて、生徒会活動に意欲的な生徒が多い。 ○部活動への加入状況が良く、部活動に加入することで、周りを見た仲間との関わり方ができるようになった生徒も多く見られる。そんな中、学業と部活動の両立や人間関係に悩む生徒と面談を繰り返し行ってきた。 ●部活動だけに力を入れているように感じる。部活動を理由に放課後指導等に集中できない生徒もいる。その半面、部活動をやめる生徒が多くなってきた。 ●休日に行われる大学講座など進路に関する講座や児湯の町内で行われる中高生向けのイベントへの希望者は少ない。	3	勉学と部活動を両立するのは頼もしいことです。個人での文武両道は難しいこともあると想像しますが、それぞれの志望に応じたご指導をお願いします。		

第2学年	1 確かな学力の向上と進路実現	(1)具体的な進路目標を設定し、進路実現に向けて努力できる生徒の育成	①長期休業期間等を利用してオープンキャンパスやセミナー等に参加している。 ②2年在学中に探究、LASクラスは英検2級、LAクラスは英検準2級、CI・生文クラスはキャリアUpにつながる資格取得を目指している。 ③自己理解と進路理解に努め、進路目標の早期設定ができる。	(1)①オープンキャンパスやセミナー等への積極的な参加を促す。 ②classiの導入と個人端末の有効活用 ③個別指導の実施(上位層・下位層) ④各種検定への積極的なチャレンジ ⑤BUタイムの計画的且つ効果的な運用	○2年生1学期に行った大学訪問を経て、進学への意識が高まり、オープンキャンパスや各種体験講座、セミナー等への参加する生徒が増えた。 ●今年度導入したClassiは、学習量調査や学習支援動画に取り組むことはできたが、年間通じて、生徒が積極的に活用するところまでは至らなかった。 ○放課後や朝・昼の時間等を利用して、個別指導や講座を実施し、学力向上に努めている。 ●対外模試における成績向上が一番の課題である。 3 ○英検の受験者が増え、2級合格者も出てきた。次回から準1級を目指す生徒も出てきており、取得に向けて頑張ろうという雰囲気が出てきた。 ○CIクラスは、昨年度まで3年生で受験していた情報検定を2年生で実施。高い目標を設定して、各個人が努力して取り組むことが出来た。 ○生文科は全員で、和服2級・食物2級・表計算2級の検定に向け、学びと練習を積み重ねてチャレンジし、成長が感じられた。 ●BUタイムでは、学年全体として、効果的な計画運用ができなかった。	参加率・取得率などの数値目標や実績の数値化があると、より評価しやすい面もあるのではと感じた。 3 大学訪問、オープンキャンパスへの参加等によって、生徒の勉学、進学へのモチベーション向上に繋がると思われます。引き続き、取り組んでいただきたい。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1)基本的生活習慣の確立を図ると共に、中堅学年としての自覚と規範意識を持った生徒の育成	①挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として相応しい学校生活を送ることができている。 ②常時指導を徹底し、遅刻、欠席ゼロを目指す。 ③学校行事の企画・運営の中心を担うのが2年生の生徒になっている。 ④学年集会では多くの生徒が学校内外での活動報告を積極的におこなっている。	(1)①生徒支援部・保健環境相談部との連携を図る。 ②学級担任・副担任による二者面談を行い、生徒の把握に努める。 ③学校での全ての活動を指導の場と捉え、常時指導を行う。 ④師弟同行による清掃活動を行う。	○●正副担任、保健室、SC、SSW等と連携を取りながら生徒に対応したが、家庭状況によっては外部機関との連携が必要な生徒も数人おり、状況の改善に向かうのに困難な問題も多かった。特に2学期後半は進路変更を希望する生徒が出てきたが、今後も丁寧な対応が必要である。 ○各クラスの担任副担任による二者・三者面談が丁寧に行われており、生徒の実態把握や進路に関する個別指導を行うことができた。 3 ○爽やかな挨拶をすることができ、他学年への模範となる姿が見られる。正姿の姿勢もよくできている。●服装容儀に関しては、個人の自律に任されており、制服を着崩している生徒が見受けられる。●遅刻・欠席者の常態化が見られる。	3
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1)文武運動という理念を軸に中堅学年として諸活動に主体的に取り組むことのできる行動力と豊かな人間力を持った生徒の育成	①自己の進路実現に向けての材料となるような実績や活動記録がポートフォリオにまとめられている。 ②学校行事や各種ボランティア活動に主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。 ③部活動と学業成績が連動し、双方共に良好な結果を出すことができる。	(1)①「文武両道」を目指し部顧問との連携を図る。 ②生徒主体の活動を増やす ③ボランティア活動等への参加の呼びかけ ④学年集会で、生徒の活躍を紹介する場を設ける。	○校外、授業外での活動に一生懸命取り組んでいる様子が見られ、各種大会等で活躍をする生徒が多く、頼もしく感じている。 ○自身の進路実現に向けて、家庭学習・検定の受験・講座の参加などを主体的に選択し、部活動との両立を図ろうとしており、ボランティア等に参加する生徒も増えてきた。●生徒が更に主体的にものごとに取り組めるような声かけを心がけたい。 3 ●生徒の活躍を共有したり、生活面での意識喚起や学年全体の目線合わせのきっかけになる。学年集会を定期的の実施していきたい。	3
第3学年	1 確かな学力の向上と進路実現	進路実現に向けて主体的に考え、自助努力ができる生徒の育成	①4月の2者面談で、2年次に作成した進路プレゼンシートを活用し、担任教師に自分の進路希望を具体的に伝えることができています。3者面談の場において、自分の進路目標や進路実現に向けての計画が保護者に明確に伝わっている。 ②Classiや学年毎でまとめたポートフォリオを活用し、個々の進路に向けての志望理由書を作成することができる。	①プレゼン形式の2者面談、3者面談を実施し、進路実現への行程や、必要な学習努力を理解させ自走を促す。 ②Classiによる学習記録やポートフォリオを活用し、個別面談を充実させ、個々のニーズに応じた学習機会を提供する。	○Classiを活用し、生徒の学習状況を把握することができた。 ○2年時に作成していたプレゼンシートは、連続性のない担任にとっては非常に役立った。 ○総合型や学校型などの受験指導を通して進路実現に向けて考えさせることができた。 4 ○明倫やBUの時間を活用し、進路の調べ学習や面談の時間が多く取れた。 ○国公立大学学校型推薦の合格率が上昇した。 ●タブレットを学校で充電できるようにしたほうがよいのではないかとWi-Fiは教室によって状態が悪いところがある。 ●Classiのポートフォリオへの入力が徹底できなかった。	Classiで自宅での勉強時間を把握できることで、足りない生徒が頑張るきっかけになっている。 4 先生方のご指導により、国公立大学学校推薦型の合格率が上昇したことは評価できと思います。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	最高学年としての自覚と規範意識を持った生徒の育成	①Takanabe Highschool Styleを正しく理解し、あらゆる面で下級生の手本となっている。 ②学力と共に挨拶や言葉遣いなどのソーシャルスキルを身につけている。 ③学習ツールとしてだけでなく、日々のスケジュール管理や日々の振り返りをClassiを活用しながら行っている。	①挨拶や身だしなみ(Takanabe Highschool Style)を周知させ、常時指導を徹底する ②生徒それぞれの長所を見だし、可能性を伸ばす支援を行うと共に、社会的資質・能力の発達に働きかける指導を行う。 ③Classiを活用し、日々の生活を記録することで基本的生活習慣の確立を促す	○クラスメイトとの人間関係を良好に保つための思いやりや助け合いが見られるようになった。 ○遅刻や欠席はほとんど無く、生活習慣が整っていた。 3 ○文化祭、体育祭などのあらゆる学校行事でリーダーシップを発揮し、下級生対の手本となり得た。 ●女子の化粧に対する指導が困難であった。 ●校則が緩められたことにより、身だしなみの注意をする担任の負担が増えたように感じている。	「具体的な対策」の②の内容がもう少し具体的であつたら、実行動化しやすいのではないかと感じた。昨今の社会の変化から、校則に対する様々な意見が生徒、保護者、学校側から出され、それをまとめあげてより良いものにしていくことは大切です。ご指導される先生方は大変ですが、社会生活を送る上での第一歩としてのマナーを教育していただきたいと思ひます。

	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	学校行事、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む、豊かな人間力を持った生徒の育成	①部活動と学業が連動し、双方共に良好な結果を出すことができる。 ②校外でのボランティア活動に積極的に参加している。	①部顧問との連携を図り、学習・部活動のバランスを意識した指導を行う。 ②校内外における各種行事・活動に関する情報提供や参加のための環境を整えるなど、支援体制を充実させる。	4	○進路に関わる部分で部顧問との連携ができた。 ○自ら開拓した場所でボランティア活動を行う生徒が出てきた。 ○部活動を活かしての進学に関して、部顧問との連携のもと、計画的に進学準備が出来た。 ○部活動引退後は、それぞれが自覚し、生活時間を見直し、学習に充てることができた ●各種行事等の案内はしたものの、希望進路のニーズに合うものばかりではなかった。 ●進路が決まった後の校外活動に対する意欲を喚起させることに難しさを感じる。	4	部活動、ボランティア活動と両立出来ている生徒が増えているように感じる。 部活動の成績が素晴らしく、そのことが進学にも生かされていると思われます。
--	---------------------	---	--	--	---	--	---	--

生活文化科	1 確かな学力の向上と進路実現	専門科目における知識と技術の定着	①基礎基本の定着を図り、検定全員合格を目指して取り組んでいる ②1年次からのきめ細かな一貫した進路指導を行い、進路決定率100%を達成している	①検定合格のために、放課後・すきま時間を有効活用させ、技術定着の習慣化を促す ②生徒とのコミュニケーションを密に取り、職員間で情報を共有し、普段から相談に乗る体制をととのえ、学科全体で生徒の進路をバックアップする ③インターンシップを通して職業についての意識付けを行い、進路意識を高める	3	○2年3年と学年が上がるにつれ、各種検定合格への意識が高まり、すきま時間の積極的な有効活用が見られた。 ○今年度の3年生は、情報処理系では5種目4名、4種目5名、3種目7名で3種目以上1級合格者は76%であった。昨年度より割合は減ったが、5種目と4種目取得率は今年度の方が高い結果となっている。 ○今年度の家庭科技術検定（被服および食物）は、4～1級までの受検で、全学年での合格率は92.6%であった。3級以上の不合格者は、実技または筆記どちらかの不合格が要因であり、あと一歩という生徒ばかりであった。生徒たちはゼロから知識技術を磨き、大変よく頑張っている。 ○日頃から職員間で生徒情報の共有ができており、今後の取組についての協議、生徒への目配りや指導につなげることができた。 ○3年生の進路については、全員第一志望に合格し内定率100%となった。 ●検定に取り組む生徒と、何らかの理由で遠ざかってしまう生徒と二極化している。 ●将来どのように社会貢献していくのかを考える機会を増やし、進路意識を高めさせたい。	3	学科の特徴を生かした学びの場が提供出来ている様子がよく伝わった。 3年生が全員希望する志望校や企業への進学、就職となったことは素晴らしいと思います。各種検定へ挑戦し、合格者が多数出ていることも喜ばしいです。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	社会の変化に柔軟に対応でき、社会に貢献できる生徒の育成	①基本的生活習慣（挨拶・容儀・時間厳守等）が身に付いている ②学校行事や検定、専門科目への取り組みを通して自分の役割を果たしている	①日頃の挨拶や常識的な言動に関する常時指導を行う ②学校行事や学科独自の取り組みに積極的に参加させ、自己の役割を通してキャリア発達を実現させる	3	○1年生の挨拶やマナーが少しずつ出来るようになってくるが、昼休みや放課後に被服室やパソコン室利用をする際の、使用前・使用後の挨拶の徹底がまだ不十分であると感じるため、継続指導を行いたい。 ○学科職員で同じ意識のもと、一丸となって気付いたことをその場で指導しよう心がけることが出来ている。しかし、生徒の困り感や家庭環境が多様化し、今までと異なる指導上の配慮の必要性を大きく感じる。 ●服装容儀の乱れ、遅刻・早退の多さ、整理整頓ができない、提出物等の期限が守れない等の基本的生活習慣が身に付いていない生徒が多く、根気強く毎日、常時指導をする必要と困難さを感じている。	3	挨拶含めマナーは社会に出てからも重要なことであり、そのような指導をしていただいていることはありがたいです。自分自身を磨くことになる、という意識を持って学んでいただきたいです。
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒の自主性・積極性の育成	①学科全体で学校行事の成功に貢献している ②家庭に関する学科に誇りを持ち、積極的に活動する生徒を育成している	①生徒の主体性や積極性を養う機会を設定する ②鳴海ヶ丘祭の内容を充実させる（ファッションショーなど） ③計画的な学科集会を実施し、多くの生徒に役割を与え、経験を自信につなげる ④検定合格や学校行事への参加、専門科目への意欲的な取り組み、対外的な発表会やコンテストへの参加と上位入賞を目指す	4	○鳴海ヶ丘祭では、ファッションショーや家庭クラブバザーなど、生活文化科の学びを活かし、生徒たちが自ら活躍し表現することができた。 ○北部地区家庭クラブ研究発表大会において、地区代表として選出され、県大会に出場し、優秀賞を受賞した。また、個人で応募したダイハツスイーツコンテストで、グランプリを受賞した。 ○学科行事や活動を経験する度に生徒達に大きな成長が見られ、参加も積極的になり責任感も強くなっている姿が見られた。 ○生徒達は、検定合格に向けてコツコツ取り組み、ステップアップしていくことで、知識・技術が確実に身に付き、自信につながっているようである。	4	ダイハツスイーツコンテストでのグランプリ受賞は素晴らしいです。
	4 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	地域に信頼される魅力ある学科へ	①学校説明会・オープンスクール・HP等で積極的な学科PRをしている ②地域との連携を強化している ③中高連携の推進を行っている	①学校説明会、オープンスクール、鳴海ヶ丘祭などを通して、学科の魅力を機会あるごとに紹介する ②HPの更新を通して、地域や小中学校に向けて活発な学科の取り組みを発信する ③外部講師招聘事業の内容を充実させ、新たな取り組みを開拓する ④専門学科の特色を生かした中高連携の取り組みを実施する	4	○ウォーキング講習会、ヘアアレンジ講習会、フラワーアレンジ(ブーケ)講習会、フード講習会など多くの外部講師による講習会を実施することができた。特にフラワーアレンジ講習会は、2年のフラワーデザインの学びを活かす新たな取組として実施できた。 ○学校説明会では、依頼された生徒が学科の特色を実体験を踏まえ、しっかりと伝えることができた。12月には3年生全員が高鍋東中学校2年生へマナー講座を行い、中学生へ素晴らしい指導を行ってくれた。 ○10年ぶり開催の産業教育フェアでは、学科をPRすることができ、参加した生徒も販売業務を経験し、貴重な体験となった。 ○課題研究の地域課題研究班が、高鍋町役場でのプレゼン発表を通して、地域の方々や農泊アドバイザー等の専門家と交流することができた。2月には産業教育研究発表会で発表する予定である。 ●HPの更新がなかなかできなかった。また、中高連携事業では中学校からの参加がなかったが、こちらも中学校に参加できなかった。	4	

探究 科学 科	5 教職員の資質向上	専門性を高める効果的な授業の研究	①専門的な知識・技術を学ぶ研修への参加している ②効果的な授業の研究をしている	①積極的な研修会参加や自主研修を行う ②生徒の実態に合った効果的な授業のために、改善や研究を行う	3	○家庭部会の夏期研修や家庭科技術検定実技評価講習会等に参加し、スキルアップやよい学びの機会となった。 ○産業教育フェアに参加し、他の学校の情報を得る良い機会となった。 ●授業改善をするための時間がなかなか捻出できない。 ●これまで以上に多様な生徒が入学してきている現状をふまえ、学習指導や生徒指導のあり方を見直していく必要性を強く感じている。 ●実技科目においては、欠席した生徒への指導が必須となり大変苦慮している。特に「ファッション造形基礎」は、学びのつながりが大きいこともあり、放課後に欠席による個別指導が毎日のように加わり負担増になっている。	3	指導のしにくさや、時間の確保など、難しい面が多々あると感じ、先生方のご苦勞をうかがい知ることができた。
	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 高い志をもって学習に臨み、進路実現を目指して、自ら学習活動に励む生徒を育成する。	①自学自習力が定着している。 ②基礎学力とともにハイレベルな思考力・表現力を身につけている。 ③自らが進むべき道や役割を見つけ、達成に向けて学び続けることができる。	(1) ①生活の記録、個別端末等ICT機器を活用し、生徒自らが計画的に学習に取り組むことができるようサポートを行う。 ②学科独自の各種学習会の充実。 ③高大連携をはじめとした外部機関との効果的な連携、探究活動の支援や講演会の実施。	3	○朝や放課後に自学に励む姿が見られ、自走できる生徒がいる。 ○外部機関との効果的な連携、探究活動の支援や講演会の実施ができた。 ○探究活動や外部でのイベント等積極的に取り組む姿勢が見られた。 ●学力差が大きい部分があるので、個別に丁寧な指導を心がけたい。	4	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 部活動やボランティア活動の促進とともに生徒の主体性や積極性を育成する。	①生徒主体となり積極的な学科PRをしている。 ②地域や社会全体の諸問題や矛盾に気づき、他者と協働しつつ解決を図ろうとしている。	(1) ①校内外イベントへの参加呼びかけ。 ②生徒会活動への積極的な参加の支援。 ②学科行事等における、学科内での繋がり強化。	4	○探究活動を通して、地域の課題を自分事と捉え、解決を図ろうとする姿が見られた。 ○生徒が活躍できるようなプログラム設定ができた。 ○多くの行事において、生徒が主体的に活動を行い、探究科学科の良さを発信できていた。 ○探究活動に関するカリキュラム再編を行っている。 ○生徒会役員には積極的な立候補があった。	3	アウトプットを行うことが大事ですので、そのような機会を作っていただきたい。
	4 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1) 多様な活動を展開し、地域と関わり合いながら、生徒の課題発見、解決能力を育てる。	①学校行事をはじめ、部活動や生徒会活動、探究活動への取り組みの中で、自分の役割を果たしている。 ②地域のイベント等に積極的に参加している。	(1) ①学校説明会やオープンスクール、Instagram等、生徒が活躍できるようなプログラム設定を行う。 ②探究活動や学校設定科目を通して、地域や社会の課題と向き合い、自分事としてそれらに向き合わせるためのカリキュラム設定。	3	○12月の探究発表会に1年生が参加できなかったが、2年生が明倫の時間に1年生に対して具体的に分かりやすく説明してくれたのはよかった。 ○イベントや生徒会活動の参加呼びかけや支援、学科内でのつながりの強化に努めている。 ●校内外のイベントやボランティア活動に積極的に参加する生徒が多くなる一方で、全く参加しない、意欲がない生徒もいて、個人差が大きいと感じる。	3	学年を越えて上下級生とのつながりができるのは好ましいことと思います。探究発表会は、それぞれの生徒が一生懸命に調べて発表しており、たいへん良かったです。生徒の目線からの様々な発表に感心しました。 高鍋高校は同窓会組織がしっかりしているので、進路選択やボランティア募集などに協力してもらえと思っています。